

まほうのしっぽ

名瀬市立小宿小学校 3年 小園 溪介

りょうへいくんは、とてもこん虫の好きな少年でした。
今年の夏休みも、こん虫採集をするために、近くの林へ出かけました。
林の中は、ひんやりとしていて、いつものにぎやかなせみの声が聞こえません。
この日は、ふしぎなことに、虫が一ぴきも見つかりません。
りょうへいくんは、林の中を歩き回り、葉っぱのうらをのぞいたり、木の回りを調べたりしてさがしました。
二時間くらいして、やっと、一ぴきの木登りトカゲを見つけました。
りょうへいくんは、トカゲをつかまえるつもりはなかったのですが、その日初めての生き物だったのでつかまえることにしました。
ゆっくりと手を近づけて、さっとしっぽをつかんでひっぱりました。
すると、トカゲは、しっぽを切って、天に上るように、するすると木の高いところへ登って行ってしまいました。
りょうへいくんは、そのしっぽを大事に持って帰りました。
その帰り道のことでした。
「たすけて、たすけて。」
という小さな声が聞こえました。
りょうへいくんは、だれだろうと周りを見回しましたが、だれもいません。気のせいだろうと思って、また、
「たすけて、たすけて。」
という小さな声が聞こえました。
そこで、もう一度周りをゆっくりと見回しました。
すると、どうでしょう。
大きなくものすに、チョウがひっかかっていたいました。
くものすに近づくと、また、あの声ははっきりと聞こえてきました。
りょうへいくんは、チョウの羽がいたまないように、そっとくものすからはずして、助けてやりました。
チョウは、
「ありがとう。」
と言って、空高くとんでいきました。
「えっ。今、チョウがしゃべったぞ。でも、まさかね。しゃべるはずないか。」
りょうへいくんは、ひとりごとを言いました。
チョウを助けたのがうれしくて、楽しい気持ちで、家に帰りました。
次の日、りょうへいくんは、あの木登りトカゲのしっぽを見てみました。
ふしぎなことに、そのしっぽは、美しい緑色をしていて、元気よくぴくぴく動いていました。

りょうへいくんは、びっくりしました。

「よし、友達に見せてあげよう。」

りょうへいくんは、友達のよしきくんの家に行きました。

よしきくんは、自分のかっているコオロギが鳴かないので心配していました。

りょうへいくんがコオロギに近づいてみると、こんな話し声が聞こえました。

「私たち、女の子だから、鳴かないのにね。」

「そうよ。鳴くのは、男の子なんだから。」

「このかごには、女の子しかいないから、鳴かないのにね。」

やっぱり、ぼくは、虫の言葉がわかるんだ。

りょうへいくんは、とてもうれしくなりました。

よしきくんに、コオロギはオスだけが鳴くこと、このかごには、めすしかいないことを教えてあげました。

「ああ、そうだったのか。けど、どうしてわかったの。」

「それは、ひみつだよ。そうだ、よしきくんに、見せたいものがある。」

りょうへいくんは、ポケットに入れてあったぴくぴく動くトカゲのしっぽを見せました。

そのときです。さわがしい声が聞こえてきました。

「おいしそうだわ。どっちの子の血をすおうか。行くぞ。行くぞ。」

力の声です。りょうへいくんは、力をたたこうと、しっぽをテーブルの上ののせました。

すると、あれほどよく聞こえていた力の声がまったく聞こえません。

もしかしたら、しっぽのせいかもしれないとりょうへいくんは考えました。

そこで、りょうへいくんは、しっぽを持ってみました。

そうです。まちがいありません。このしっぽを持っているから、虫たちの言葉がわかったのです。

よしきくんにさよならを言うと、外へ飛び出して行きました。

りょうへいくんは、ドキドキ、わくわくしながら虫をさがしました。

すると、こんな声が聞こえてきました。

「雨がふってきちゃった。すの中に、たくさんの水が入ってくるから、また、ひっこしだね。」

「いやだね。ひっこしは大変だもん。」

と、たくさんのありたちが、困った様子で話し合っていました。

りょうへいくんは、スコップとかさを持ってきました。

すの周りにみぞをほり、雨がすに入らないように、かさをさしてあげました。

ありたちは、雨がふってこないの、ふしぎそうにしていました。

次の日、とっても天気がよかったので、りょうへいくんは、まほうのしっぽを持って、林にでかけました。

朝早くから、音を立てないように、静かに静かにさがしました。

すると、かしの木に、二ひきのクワガタを見つけました。

どんな話しをしているのか、りょうへいくんは、そっと近づいてみました。

「おい、今のは、はんそくだぞ。」

「いや、お前のほうが先にはんそくだ。」
とけんかをしているところです。

りょうへいくんが、
「ぼくが、しんぱんをしてあげようか。」
と言うと、
「たのむぜ。」

と、クワガタたちが言いました。

それから、何回かたいけつして、二ひきのクワガタは、満足して帰って行きました。

この後も、いろいろな虫の話聞き、助けてあげたり、虫のひみつを教えてもらったりしました。

しかし、ある日、木登りトカゲのしっぽが動かなくなりました。

そのとたん、まほうのしっぽの力もきえてしまいました。

りょうへいくんは、また、あの林に行って、木登りトカゲをさがしました。何時間もかけていっしょうけんめいさがしましたが、とうとう見つかりませんでした。

でも、りょうへいくんが帰った後、林のおくの高い木の上に、しっぽの生え変わった、あの木登りトカゲがいました。

